

「子供・若者育成支援強調月間」にかかる 高校生メッセージ

「子供・若者育成支援強調月間」 in KYOTO に高校生を代表して、京都府立北嵯峨高等学校から青少年赤十字活動をしている JRC 部が参加しています。

今となつては、私たちの生活に必要なスマートフォン。大変便利で、人と人とを繋げるバトンとなる反面、使い方次第では、人を傷付ける道具にもなってしまいます。

SNS のトラブルやいじめはスマートフォンを、人を傷付ける道具として使用してしまった場合です。当の本人は“傷付けた”という意識はなくとも、相手の解釈次第では“傷付けた”ことになってしまうケースもあります。相手の顔が見えず、文字から相手の気持ちを推測することはとても難しいことです。

また、時に誤った解釈は自分自身を傷付けてしまうことがあります。昨年、府内では薬物乱用で数十名の少年が補導されました。この少年たちがどういう経緯で薬物乱用に走ってしまったかは分かりません。興味本位なのか、誰かに誘われてなのか、それとも“誤った情報”に流されてなのか。

インターネットには、薬物は安全だとか、合法だから大丈夫だとか、誤った情報がたくさん存在します。これらの嘘の情報から身を守るためには、正しい情報を知っておく必要があります。「薬物は危険」という情報がすべての人の常識になることを願います。ですが、情報がすべてではありません。たとえ正しい情報を知っていたとしても、自分の気持ちや周りに流されてしまうことだってあります。少しだけなら大丈夫だろうという気持ちに流されない環境作りも必要だと思います。環境に関しては、自分 1 人ではどうにもできません。誰かが困っていたら相談に乗ることや、非行・誰かを傷付ける行為をしようとしていたら話を聞き、みんなで支えあい、薬物乱用に走らないようにする環境作りが大切だと思います。

私たち高校生は、子供にしては大きく、ですがまだ大人ではない微妙なラインに存在しています。そんな私たちだからこそ、出来ることはあると思います。それを見つけて、社会の役に、あるいはそんな大げさなことではなく、身の周りの人でも家族でも、誰かの役に立てるようにしたいと思います。この先の長い人生を暗いものにしないために、私たちは誤った行為をしないこと、周り支えあって生きて行くことを目指します。

令和元年 10 月 26 日

京都府立北嵯峨高等学校